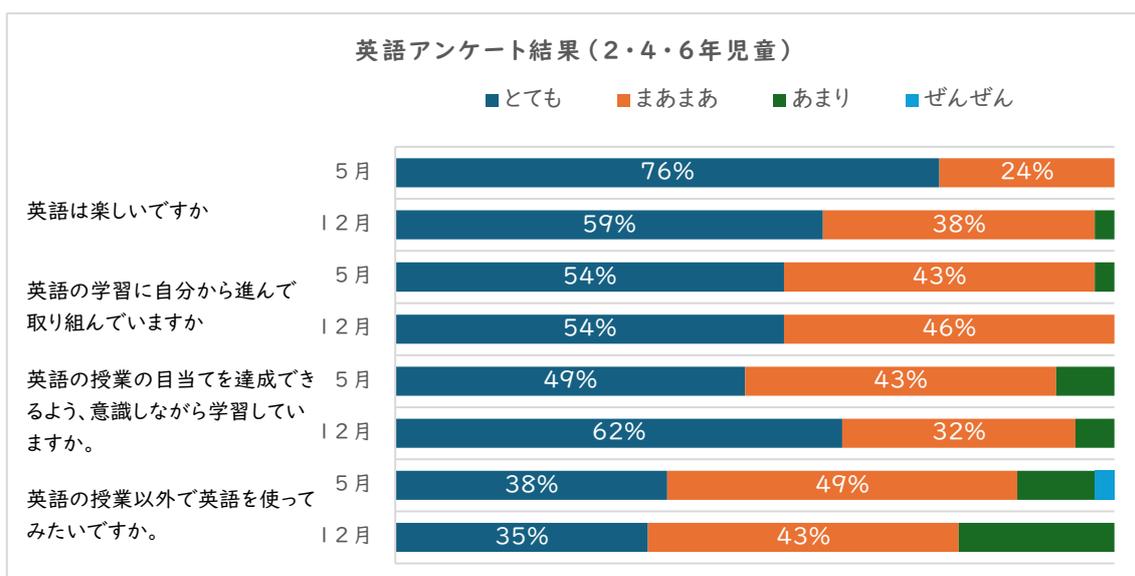


英語特区の取組と関連して【補足資料】

英語に親しみ、楽しく活動できるようにすることをねらいとして、週2回の英語による校内放送やALT(外国語指導助手)との日常的な関わりを多くしたり、教師の指導力向上のために英語教育専門家に指導を受けて研究授業を行ったりしている。

本年度の校内研究において、児童に対して、英語に関するアンケートをとった。以下に2・4・6年生の結果を示す。



各項目において、肯定的な回答を示している児童の割合は高く、多くの項目で9割以上であった。英語を楽しんでいると感じたり、主体的に取り組んでいると思っていたりする児童が多いことが伺える。また、児童が目当てを意識できる授業展開になっているとも言える。

一方、「英語を授業以外で英語を使ってみたいですか。」という項目においては、否定的な回答をした児童もいた。今ある取組に加え、さらに授業以外の学校生活においても日常的に英語にふれる機会を増やしていくようにしていきたい。

また、7月と12月に行った学校評価アンケートからも、児童用アンケート項目1-4の「英語の学習は楽しい。」において肯定的な回答の割合が高かったり(100%→98%)、職員用アンケート項目I-2の「児童に英語でコミュニケーションを図ろうとする力(活かす力)がついたと思う。」においても同様であったり(90%→100%)したことから成果が得られていると考えている。

今後も、学習指導要領を踏まえて培ってきた新本オリジナルによる英語授業の開発を進めるとともに、きめ細やかな指導の中で児童の英語に親しむ資質を高めていくようにする。